

小学校におけるデジタル化と学力—小学校教員の全国調査をてがかりに—

サト A 「1人1台 PC タブレット (端末)」が拓く 学校教育DXの課題と可能性

- ◆ [日本子ども社会学会第28回大会自由研究発表申込](#)
- ◆ [日本子ども社会学会第28回大会ラウンドテーブル開催申込](#)

- 1. [自由研究発表・ラウンドテーブルに向けて \(馬居\)](#)
- 2. [公立学校における修得主義化した履修主義のリアル \(虚実と功罪\) \(馬居\)](#)

- 3. [ラウンドテーブル：提案者 討論者 200字構想一覧 \(無記名\)](#)
- 4. [ラウンドテーブル：第2回研究会での発表記録集 \(無記名\)](#)

- 5. [望月先生より：ラウンドテーブルに関連するミニ・グロッサリー](#)
- 6. [特別ゲスト 武内清先生より](#)

- 7. [小学校におけるデジタル化と学力 \(西本\)](#)

◆◆学校DXの課題と可能性を問うために

サト B 共同研究「新型コロナ危機が顕在化させた人口減少下の公立学校の脆弱性—教育事象における格差概念の再定位を視野に—」の理解と活用を願って

ファイル C “調査と分析の記録”に遡り、次の研究課題への視座を提起

- C-3 [日本の公立小中学校の学級づくりを基盤にした
リアル授業との対比によるオンライン学習の課題と可能性](#)
- C-4 [授業分析図、評価クロス表](#)

ファイル B 西本発表時の PPT と大会事務局による公開文書

- B-2 [日本教育社会学会第72回大会発表要旨集録2020掲載文書](#)
- B-1 [西本による発表 PPT：1. 沖縄と静岡の学力](#)

ファイル A 馬居発表時の PPT 改訂版と加筆修正のための追加考察等

- A-1 [馬居発表 PPT 改訂版](#)
- A-4 [武内先生の質問への回答として](#)

4月17日(日) 📧 : 西本先生から分析結果のメールを開いて得た思考遊戯的メモ

○文房具とは

- ・1人1台、PC、タブレット、端末⇒どこに焦点をあてるか
- ・文房具であるなら今期学習指導要領の前提を問い直すべき
- ・ICT、GIGA は共に、デジタル化進行を前提に、知識の構造を問い直すことが前提
- ・デジタル化は教育機器の範囲にはとどまらず、平時と有事、平常と危機的状況、個々人の思考と志向と行動、好悪・善悪を超える意思決定の判断軸の変化（改編・改編）に及ぶ
- ・ICT、GIGA は共に学校教育の構造転換なしには実現不可能
- ・本来、転換を求めて導入したはず
- ・ただし、機器はコンピュータ室、学校一台、学年一台、教室一台に限定して導入。
- ・教科と教科書を特定せずに高度に難解な概念を用いた説明文書のみでの公示のみ
- ・特定の学校での非日常的な研究発表によるモデル化にとどめる
- ・教育工学、教育機器、教育方法の範囲に限定し、学習指導要領の教科等の領域に入れない

○学校教育デジタル化は可能か、必要か、

- ・必要だが現状では不可能に近い
- ・教育機器のデジタル化は可能だが、文房具化は困難
- ・文房具は用途が明確、利用者が個別に改編することが困難
- ・PCは活用者とともに成長進化（善悪超え）する機能を内在
- ・紙と鉛筆、黒板とチョークの世界は2次元、平面上に点と線と面の組み合わせた表現
- ・PCタブレットは時空、性差、国籍、見た目を超える世界を情報に転換する
⇒四次元仮想世界（メタバース・市場）の再生産マシン・装置・system

○1人1台無償貸与が創る学校とその教育の現実が構成される過程の探求を

- ・休み時間が創る子どもの思考
- ・文科部局、省庁、内閣、教委、学校、教員、子ども、保護者単位に異なる扱い方のルール
- ・小学校教育の授業づくりの構造にタブレットを入れることは困難

→学習過程の構造が異なる

→タブレットは既存学力の概念による知識の再生産システムの改編を強いる

→学習指導要領の脳科学に基づく構造論は少数者を対象に高度な授業力を保持した教育者と高い知的能力を生得的に保持し、日常生活を保障された学習者との関係によって再生産される社会的事象

・日本の公教育の前提と異なる→私立学校、明確な目的により、目的に適合する教育者と学習者を選別することが必要条件

- ・十分条件は・・・